山陰のモダニズム建築の保存再生理論の構築とその実践

総合理工学部　教授　千代　章一郎

松江市は京都や奈良に並ぶ国際観光都市として大きな歴史的遺産を保有しています。それらの歴史的遺産は「残った」のではなく、「残されてきた」のです。遺産に思いを込めてきた人びとの多くの智恵が活かされています。また松江には、優れた近代建築の遺産もあります。2019年には島根県庁と旧県立博物館が国重要文化財の指定を受けました。日本の多くの都市で戦後の近代建築が失われていく中で、松江市をはじめとする山陰地方各地には、多くの近代建築遺産が現存します。建築家の理念やデザイン手法を分析し、世界建築史のなかに位置づけることによって、これらの近代建築を歴史的遺産として未来に「つなぐ」ための理論を構築しています。

その成果の一部は、展覧会として多くの市民に発表しています。これらの建築に対する愛情を育み、これらの建築が建っている場所を誇りに思ってもらえることが、持続可能な文化環境の熟成に向けたささやかな礎となることを期待しています。

「新しい時代の都市空間を切り開いた建築と人びと」展。千代章一郎企画・展示構成。2019年12月から2020年1月にかけて開催された島根県庁及び旧県立博物館国重要文化財登録記念展。展示物は建築図面や建築模型、さらに建設以前、建設中、建設後の建築やその周辺の都市の移り変わりを示す写真を展示している。会場は「建築作品」そのもの。作成したパンフレットには、会場周辺マップと眺望ポイントを掲載し、「建築作品」周辺の都市環境から眺めて過去・現在をオーバーラップして見てもらう仕掛けを意図している。2回のギャラリートークも学生を含む様々な世代の参加で盛況であった。